

2009夏 経営者特別フォーラム

「不況を乗り切る元気な中小企業」

～日本一明るい経済新聞取材現場から～

産業情報化新聞社 竹原 信夫氏が講演

毎年、約 600 社に及ぶ近畿の中小企業取材し続けている「日本一明るい経済新聞」の社長兼編集長、竹原信夫氏による講演が 7 月 17 日、大阪・梅田のホテルグランヴィア大阪でありました。弊社主催、摂津水都信用金庫後援で、テーマは「不況を乗り切る元気な中小企業～日本一明るい経済新聞取材現場から～」。やる気とアイデアで好業績を挙げている多くの社長たちの共通点などを豊富な実例から紹介しました。

竹原氏＝写真＝は、日本一明るい経済新聞（産業情報化新聞社）を 10 年前に立ち上げた理由について、「新聞は、株が急上昇したときより、急降下したときのニュースを大きく扱う。ガソリン価格では上昇したときのニュースは、下がったときより大きな見出しになるなど、暗い面を大きく報道する。だから、世間の人を暗い心にしがちです。そこで、僕は、勤めていた経済紙の記者を辞め、特に、中小企業を元気にする新聞をつくってみたくなったのです」と前置きして要旨、次のように話しました。



元気な社長は「あいうえお経営」

元気な社長と話していると、皆、共通点があり、それらをまとめてみると「あいうえお」経営になります。

「あ」は、社長が明るいこと。「儲かっているから明るいのだ」と言われるかもしれないが、私は違うと思います。ピンチのときに社長が暗い顔をしていたら、従業員も取引先も不安になる。「作り笑いでも明るい顔で、あれこれ不況対策を打っていたらよくなっていった」と多くの元気企業の社長が話しておられます。

「い」は絶対がんばる、という強い意志。

そして、「う」は運。元気な社長さんは、「私は運がいい」とホントに思い込んでいる。交通事故で足を骨折しても、暗い社長は、「えらい時期についてないわ」とぼやくばかりだけれど、元気な社長は、「ひとつ間違ったら、頭打って死んで

いた。私はついてるんですわ」と、松下幸之助さんのようなプラス志向の方ばかり。「え」は縁。顔が広く、ネットワークを持ち、相手を思いやっている社長は、苦しいときに支援を受けるなどで、うまくいっている。

「お」は大きな夢。僕は社長インタビューの最後に必ず、「社長の夢は何ですか」と聞きますが、元気な社長は高齢なのに、生き生きと語られる。これに対して、元気がない社長は腕を組んで考え込んだり、同席した総務部長に「なんやろなあ」とたずねたり…。何千人の成功している社長さんを見ていると、この「あいうえお経営」をすれば、間違いなく会社は発展していくと思います。

経営とは関係ないようなことが大切

また、竹原氏は「番外編」として、トイレ掃除が趣味という中小企業の社長が少なくないこと、社長の出勤が早い、社長夫婦の仲が良いなどで会社がうまく運営されているいくつかの例をあげ、「経営とは直接、関係ないように思えるこんな事が、すごく大切なことなんですね」と強調しました。

また、ちょっとの工夫で会社が元気になってきた例として一

社長が、取引先の社長の誕生日に自分で花束を届ける、という変わった行動を始めたところ、「まあ、お茶でも飲んでいって」と誘われ、仕事を少しずつ増やしていった▽客が帰るとき、「ありがとう」と手書きした畳一枚分の大きな旗を従業員が振って送り出すモツ鍋屋さん▽ボーナスを全額、銀行振り込みせず、従業員の奥さんに3万円、子供に3千円くらいを、名前まで書いたぽち袋に入れて持ち帰ってもらう社長▽工場を内部、外部とも従業員が、丸ごときれいに洗い、顧客から「こんなきれいな工場なら品質もまちがいないだろう」と言われ、「きれいな工場は最高のセールスマン」と確信するほどになった鉄工所など、多数の成功事例をあげました。

中小企業が開発、ヒットさせた製品のいくつかも持参して参加者に示しながら、アイデアの大切さを語りました。

かきくけこ経営も

さらに、か（感謝）き（気力）く（苦労を楽しむ）け（健康）こ（好奇心、行動力）経営を語り、感謝については、社長が社員に「一生懸命やってくれてありがとう」とはっきり声をかけることで、やる気を起こさせ、売上を大幅に伸ばしている会社などを紹介。感謝やほめることの大切さを訴えました。そして、最後に「参考になると思われたら、行動に移さなければ何にもなりません。何かひとつだけでも、行動に移していただきたい」と締めくくりました。

まとめ ㈱大阪彩都総合研究所 橋本 剛